生涯学習情報誌
Fons
- フォンズ -
No. 94　2023年4月25日発行
常陸太田市フォンズ・ネットワーク事務局
常陸太田市生涯学習センター内
〒313-0061 茨城県常陸太田市中城町3280番地
TEL:0294(72)8888 / FAX:0294(72)8880
Webサイト:https://hitachiota-fons.jp/

写真:小沢駅　岡部 守博さん(彰博さんの父)

小さな冒険

岡部 彰博 さん（小沢町）

平成一七年（二〇〇五年）三月三一日、日常に溶け込んでいた一つの音が鳴りやんだ。日立電鉄（通称チン電）が廃線になった日だ。

そこからさかのぼること約十五年前の小学校中学年、初めて友達と三人で最寄りの「小沢駅」から電車賃六十円を握りしめ「常北太田駅」へ出発した。先頭車両の一番前に直立不動。見慣れない線路からかき分けられる景色が、僕らを夢中にした。

常北太田駅に着くや否や、大人と車で行く太田の街中とはまるで違う景色に見えた。車の窓からいつも見ていた当たり前の景色。大きく違う事は、その場を歩いているからだ。それだけで、それだけなのに心が躍った。

小沢駅は無人駅なので、帰りは常北太田駅で初めての切符を購入。その切符を駅員さんに見せる自分の顔はきっとドヤ顔であっただろう。行きには気付かなかったが、ホームに行くと、ホームが一つだけじゃないことに動揺した。と同時に、奥には休んでいる電車が数両あることにテンションが上がった。出発して間もなくすると見慣れた景色が近づいてくる。里川を渡るころには、いつも堤防にいる牛、お墓が見えてきて、さらには家業の酒造りのシンボルでもある煙突が存在感をだしてくる。たった一駅であったけど小沢駅に降りた時には、安堵感でいっぱいだった。

太田に行くことから始まり、茂宮駅にボウリング、久慈浜駅に海、プール、スケート。そして中学には練習試合で水木駅へ。今でも色あせることのない思い出。ありがとう、チン電！

フォンズとは…ラテン語で泉の意味です。とぎれることなく新鮮な情報がお届けできるようにと名付けられました。

新太田点描 29

一貫斉中山信敬

水戸徳川家の家臣中山備前守信吉は、徳川頼房が水戸に封ぜられた時に家康公から直々に付家老を命じられ、家臣団のなかでは別格の扱いを受けていた。

元来、中山氏は相模国小田原北条氏一族の八王子城主の北条氏照の重臣であったが、北条氏が豊臣秀吉によって攻め滅ぼされた時、信吉の父中山勘解由も主君と運命を共にしている。

この時、家康公は勘解由の遺児信吉を小姓として取り立て頼房公に仕えさせた。これが明治維新まで続く水戸藩付家老中山家の初端由縁である。

初代信吉から十四代信徴までは水戸藩領の中に別高の知行地を拝領し領主として水戸藩の影響を受けながらも独自の支配体制を敷いていた。

知行地は当初松岡（現・高萩市地方）であったが宝永四年（一七〇七）に太田地方へ知行替えとなり九十六年後の享和元年（一八〇三）再び松岡へ戻っている。

中山氏が領主として太田地方を支配した期間は約一〇〇年ほどであったが、この間は六代信敏、七代信順、八代信昌、九代政信、十代信敬ということになる

さて今回の主役となる中山信敬はこの時期に太田地方の最後の領主となっていた期間と重なる。

中山信敬は明和元年（一七六五）水戸家五代藩主徳川宗翰の九男として生まれ、八歳の時養子として中山家に入り十代目当主となった。幼名は大膳、諱は初め信徳と称したが後に信敬と改名している。

信敬の長兄六代藩主治保は逝去後に文公と諡号されたほどの学問好きで、藩内では義公の再来と期待され、停滞していた大日本史の編纂事業を推進した。信敬もまた文公同様に文雅・風流の嗜みをもち、特に詩・書と絵画に秀でていて自からの作品には「一貫斉」という号を記していることもある。文政三年（一八二〇）没。享年五十五歳

さて左に掲げた一幅は信敬が描くところの「梅花朝陽圖」である。タテ百十一・〇㎝、ヨコ三十四・〇㎝、絹本の画面中央にいま咲誇りの白梅花を胡粉彩色豊に描いている。落款には「信敬画」の署名があり押印は「一貫斉」である。

ところで、この画に賛を寄せているのが水戸藩九代藩主の斉昭公である。つまり信敬から見れば甥の子ということになる。信敬の没年時に斉昭公は二十歳で未だ藩主になる前の部屋住み時代であったので大叔父の画に賛をすることは常識的には考えられない。

そこでもう一度この画を凝視してみると、斉昭公の賛の位置が少し右に偏り微妙にバランスが悪い。これはどうしたことか。今考えるに、恐らくは信敬の没後に遺品としてあった時には賛など無かったであろう。後年それを入手し、藩主となった斉昭公が賛を無理やり押し込んだと思われる。大叔父とはいえども付家老となれば一家臣である。まさに身分社会、階級社会の典型的な例であると云えよう。

（付言）本来ならばこの項は、市の職員で専門職である学芸員や文化財保護審議員の先生方にも執筆してもらえればもっと充実した内容になるだろうなと思うのは私だけであろうか？少々気になるところでもある。

（吉成英文）